

是れ開却す可らざる國家百年の問題

荷物は廿日に發送し將軍に家族同伴廿八日午後七時五十分刻車で南大門から出發すると云ふ迄は下々の衆も大に

京城税關出張所にて發見取調中

木戸上旬、京城、飛騨、出雲所に、内
 地より京城に住入る地人が高値なる
 金剛石若干を携帯密輸入せんとして
 しを發見したる事件あり、税關にては
 の月にも此種の疑ひあるもの絶無

を設け七月二十七日市内に於け

ルヒ未吸飲患者九十名を拉致收
十七日迄に收容患者累計百三十
に達せるが此中全治退院せしも

島縣鹽川町に大火あり二百五十

天鬼奉天に走る

信濃丸の停船を命

上陸客十九名の糞便検査

遺露救護班

部長として露都に赴き卓絶の才を中外に示したる日本赤十字社長上野啓榮博士^{（註一）}は歸郷の職に在りしが、
在る十五日突然歸郷せられたる原因は、
就ては同じく遺孀救護振興護身會の理事長として在京中忌はしき關係ありて風紀を亂したるに由る（特設東京

元の翠丸を切取る

高麗彦(一)は七月九日伯父
奉還都水洞倉里洞飢餓
山郡還田眞城 濟海高 承云
金の無心を吹掛けたるも拒
承云は絲の安仁浩 人を死
せんさしたるを急報に發し馳付け
より大に驚き大同江に飛入り逃
等 悲憤を聞き付け里民が馳付け
を乞取らんとする折柄章元及び金
し類雜品數點を奪取し章元の陰に
を死せしめんとす

をかは
ほり

離れた。小舟の邊に
つたる小刀を取出し仁濟清の
倒るゝを見て陰莖と單
に於て人間の腎丸及び陰莖は肺病
妙藥なりと知人より聞き込み此の
行を取行したるならんとの説あり

取りたる斧を取つて

部に打込み尙ほ小供の韓童
く霞風小僧の諱名あり大正四年七

明神宗の御代

朝敵糾治の
 實を弄ぐる精勢
 將軍の職責
 思ふに
 仲々に盡きぬ
 耳を澄ませば
 さふめき渡る

其の内容の記載を差控ゆべきが、今更
 の事たる「犯刑常人」に於ては

令嬢達の登壇

たいし
かゝうせん

之吏の宮明洋叩通過

い奥の聞から漢かにビアの音がは周知の事實にて其の課税は從價
へられては折々お嬢さん方の歌ひ割なる爲め其の多額の關稅を免れん

御出番に九月十日比御歸朝に十月十日

御差遣あらせらるる旨仰沙汰あら
 十五日夜、院敷仁親王殿下を同國
 我が皇主に於ては其の御容體の爲
 大宮殿下御差遣成りたるに對
 位尊親の爲め其の御名代宮親王
 に當らせり

子に彼我兩國に轉はれたるを見れば、
 而も今日露露約といふ日露の大機
 今も今日露露約といふ日露の大機
 多年の暇日露の懸念を間接に御心
 あらせりたるによるものなるべし
 御差遣に於ては其の御容體の爲
 大宮殿下御差遣成りたるに對
 位尊親の爲め其の御名代宮親王
 に當らせり

子に彼我兩國に轉はれたるを見れば、
 而も今日露露約といふ日露の大機
 今も今日露露約といふ日露の大機
 多年の暇日露の懸念を間接に御心
 あらせりたるによるものなるべし
 御差遣に於ては其の御容體の爲
 大宮殿下御差遣成りたるに對
 位尊親の爲め其の御名代宮親王
 に當らせり

たる内山小二郎氏を始め宮内省側御満足に思召さるゝと同時に露

宮殿下並に二行の出發
りたりは外國通の請願ある式部官吉田
作氏並に閑院宮附内務事務官松井
徳氏等共都合十名を總裁されたり
に於ては同殿下の御受遣は厨一階の
御歡迎あらせらるゝと推察する又
隨行員長ともいふべき内山侍從武官
長の如きは我が陸軍に於る露國通を
自了しし露官と感ぜしむ

にて御歸朝は十月中旬頃ならんど
關に赴き海を渡つて釜山に至り

も今 回 閑 院 宮 殿 下 を 御 差 遣 相 成 り 鐵 道 に て 露 都 に 向 は せ ら る 苦



西條の大蛇窟の怪物 今岡登

大衆に於ては、
新開地者の運命を憂へる

神之山來守和恩賜重

御武町
電二九一
御成

上卷(古)秋月一伊藤子(林)

一八五二(附土)
 三六三七(附土)
黃金館
 一八五二(附土)
 三六三七(附土)

大冒險大活劇。名金。第十二編。三角。

運轉手を、其持を自在に、而して歸
 還するに二、三を幸ひの廿四にして、すその
 世に於ては、是實に世界の名譽なる、所以
 主、彦山格、櫻井の助太刀
 佐、豊、主を、前、主、最好評を博
 した、國司主中の連、則ち、我街竊に
 した、特別大運行にて、何時もシッ
 した、特別大運行にて、何時もシッ

金明三（振替京坂参貳貳七番）

心臓病

仁川牛角洞

大田池
電話七六五五
電話七六五五

電話にて即注文は多少に不拘即屈仕候
ハキ御注文は切手代御返し申候

本院
產婦人科
京城旭町一丁目
電話二三四〇番
診察午後

院主 本 堂 設



宮本武藏

第三百十四回

桃川如燕口演
良上義三郎來記

華島親之助は宮本の門人となつて日々出入をして居りまして、隙があつたら刺止めやうと付視ひますが、流石に宮本武藏少しも油斷がないから残念はあるが手を付ける譯に仕かない。一日一日と経過つて了ふ。其中に、追つた宮本と邂逅ひに連れて親之助考へたのは宮本といふ人聞しに勝る名人、天下の名士といふのは此人の事であらう。師匠とは言乍ら一極短見とは天地雲泥の相違、何の道徳も仕込み一人前の武者に仕立て、見るとは天地雲泥の相違、何の道徳も仕込み一人前の武者に仕立て、



か知らんけれども、憐れういふ人を殺さうといふのは天理に背くといふもの、を宮本に打明けて、詫をいたし、一桎枷兒と師衆の縁を切つて宮本の門人に如えりかとも考へた、宮本も新之助は年若き人、人物も好し、技倆も美事、天晴な若者と思つて熱心に武藝を教へて居ります、其月中が立つて七月七日、七夕の節句と相成つたに、武藏宿の中は御殿へ出て御酒宴の席に列なり、夜更けて歸邸いたしました門人共は座敷で集まつて妻女から酒肴を頂戴して、饗よく酒宴をいたし、夜更けて皆々立歸りました、武藏疵れて歸つて来て、妻女を柵め家内の者を先へ休息させ、自分は一人縁側へ出て涼んで居ります、多くの門人の中で只一人違つたのが藤島新之助、計つ事天理に背き、事の善惡はあにも感ある如兒を捨て、宮本に従ふは人間の道に背き、運を天に、此機合を外さず、武藏正名を刺し己れも潔う脱け切つて成候、

新之助は心を決いたしました、藤島新之助の柄に手を懸け、四邊に氣を配忍び足に近付いた、神女ら身の中にも知らず、武藏正名は縁に佇み小聲を唄つて居る所を、近付き構、新之助は一發懸り抜けた、一刀、流星の如く後から幸も、

れと突込んだ、實に風前の燈天下、名客正名此所に於て落命する、と見る中に、神祕不思議の武藏正名縁側の端に爪先だけで立つて居たがバツと身を躍らして塵埃へ飛

其有様は宛然懸給の如く、

八新第
二
如く武烈は藤島にはない
か。武何故あつて武藏を討た
んとする。イヤサ何故に頼まれ
たを蹴つた。汝の爲に依つて銅鑼の
一手二手、指を食はれ遣はした。
恩にあはれも報はるまい。亦恨
を受ける者もない。藤島に頼まれた



本町 京城 日本蓄音器商會

か、頼んだ者の名を申せ。新「恐入りました。什服を御御下さるやう之れには仔細がございます。武、ウム仔細があらう、申せ。新「只今申上げますから少々膝をお置の下さるやう。武「宣、速やかに申せ、申さんと其分には松置かん。新「恐入りました、官は私に別段先生に對して意氣をなますすもございませぬ。餘人に報名しました。據、なぞ致しました次第。武「ウム貴様は一橋姫の關係か。新「仰の通り如兒齋の門人、藤島新之助。先生を討たうと致しました、其仔細は斯様。」「二十五一年の帳簿を致しました。宮本之れを聞いて。武「い奴は一橋如兒、亦長束傳八郎の面人、愈々以つて計して置く譯には相成らん。シテ汝は拙者を討たげて何ぞ。新「貴方便さは申付へども仰ぎましたる武將先生、御中へを向けたるは五逆罪の一つ、又如兒齋の恩義に背くも人倫の道に非らざる也とも仰ても拙者の一命漸よく腹

[illegible]

加心腸病特效精糠

定價金五十錢
本舖大阪市東區寺崎通二丁目五番附
全國各藥店に販賣せり
近時脚氣等症多し
此物有御買求の節は必ず弊店名刺指圖にて
本月初十五日掲載の右佐藤ライト商會特許廣告の内近時脚氣と稱するに

白馬印ウ井スキーの品質優良にして賣行の旺盛なる
 により赤馬印ウ井スキーを販賣せし白馬印ウ井スキーの持約店と
 なる不潔の行爲なりと貴商會より正當なる抗議を受け今後赤馬印ウ
 井スキーを販賣せざらんとを言明し此後優良なる白馬印ウ井
 スキーの販賣に同一層努力可成事を謹告し併せて表謝意候也
 大正五年八月
 英國マツキヤ社附郵便代理店
 ホームランガ商賣店
 笠山田原商店

比較は最良の撰擇法なり!!

サクラ正宗

京山邑城支店

電話一四八四
番四五七
番七五七

目丁二町治明城京

精米用 鑛山用 唐箕 水車
千石通し 萬石通し
營業品 目 網 各種 類
鑛山用 鑛山用 網 各種 類
金網 各種 類

京 城 北 米 倉 町

京 屋 商 店

長 電 話 二 七 〇 三 番

酒清等優本日大

品質純良

衛生無害

白鶴

發賣元

京坂本町二丁目廿番地

前田酒店

電話一三七七
振替口座四二五五

製造元

嘉納合名會社

舞津瀧御影町

● 船退陸料 ●


恩給年金

持別立替 月利 壹圓

大阪道頓堀大黒橋北詰
湊屋兩替店

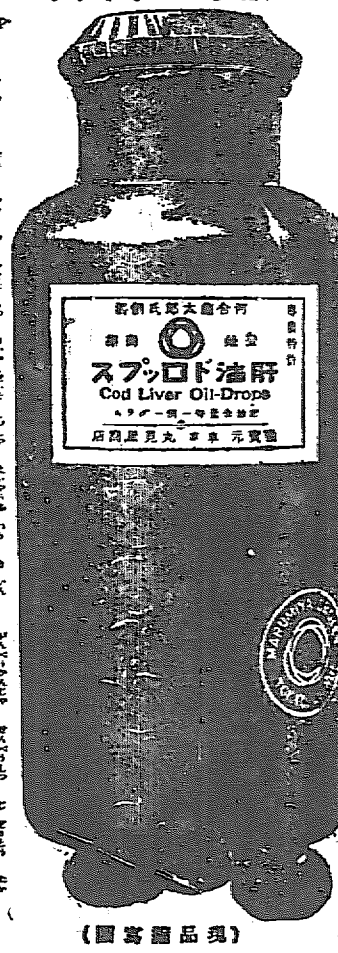
京城南山町 本願寺下
湊屋代理店

常銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務
ヲ確實親切ニ取扱申候
京 城

 朝鮮銀行

支店出張所
東京、大阪、平塚、元山、大邱、釜山
鐵南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會亭、新義州
安東縣奉天、大連、長春、開原、四平街、哈爾濱
右ノ内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

▼甚しき臭味を忍びて、肝油を飲用すべき時代は去れり▲
▼咀嚼して美味無臭、容易に定量の肝油を食用し得べき▲

[illegible]

main and U.S.A.)

ROIL DROPS.

10 in a bottle 1 20
50 drops in a bottle 1 20

size, fragrant and pleasant to the taste. Each contains
quality, taken without tazing the stomach, taking
other cod-liver oil preparations on the market.
contain one-half amount of Cod-Liver Oil and are Specially
of iron, lime and phosphorus quinine.

肝油が一般の虚弱者、痼疾者、結核性素弱者、養分不良に起因する眼病患者、腺病質の兒童等に對し、
治療上缺くべからざる滋養劑として、内科、眼科、小兒科等の醫藥に甚だしく必要と表するは、實
験上の定説なり。然れども、滋養の臭味、甚だしく不快なるが故に、其服用を怠思せらるるを防止し、
合氏多年苦心研究の結果、形狀洋菜ドロップスに似て、麥芽糖及び可溶性の含窒素物を基礎とし、一類
毎に精製純良の肝油一瓦宛を正確に含合し、乳化完全にして、分布極めて細密、美味無臭にして面
も容易に食用し得べき肝油ドロップスを創製す。本品は從來の肝油脂製品に優り、服用に面倒なる
手數、携帯の不便、棧股の迅速なる等の缺點なく、殆んど本質の肝油たる事を忘れ、兒童は勿論何人も
最も優劣なる特色とする所なり。

如斯人は滋養料◎肝油ドロップスを用ふべし

一、顔の色が蒼白くて飽無き人
一、手足が冷えて凍られぬといふ
一、筋肉を太らせ、無病状態に
一、余りな虚弱、人
一、元氣よく活動せんとする人

(Patented in Japan, Great Britain, and the United States)

TSUWA COD-LIVER OIL

TSUWA COD-LIVER OIL DROPS.

COMPOUND COD-LIVER OIL DROPS.

Oil Drops are round-candy drops of same gram of Cod-Liver Oil. In its nourishment, Tsuwa Cod-Liver Oil Drops far surpass any other Cod-Liver Oil Drops differ in that they add a further addition of the effective elements.

してゐる所謂あれ性の人
 一、身體一般に貧血してゐる人
 一、是といふ病氣はなきては何
 一、と無く弱く感胃に罹り易い人
 一、筋肉の目立て復せてゐる人

一、色が蒼くして肉を瘦し面して
 一、活潑なところ所謂肺病的小兒
 一、氣が纏らなく、喉が梗、咳、
 一、嗽や痰の人並より多く出る所
 一、謂結核素質のある人

一、身體一般に脂肪氣の少き人
 一、顔や手先きを滑くし度人
 一、産前産後の滋養を計らうと
 する人

如斯人は滋養料
 一、骨の故際即ち拘攣病骨軟化

○復方肝油ドロップス
 一、貧血症になつてゐる人
 一、肺結核其他結核病的の病に罹

スを用ふべし
 一、病後の衰弱を速に回復した

其の他種々の病骨ある人

一、無能弱に罹れる人

MITSUWA CO.
MITSUWA CO.
Mitsuiwa Cod-Liver Oil
contained amount of
all sizes, the M
Mitsuiwa Compos
with albumen, s

一、營養不良から來れる眼病、
例へば夜盲症や網膜貧血に罹
れる人。
二、氣管支炎等から起る小兒
に罹りてゐる人。

一、腦神經衰弱、ヒポコンデリ
シ、ヒステリーなどの神經病
に罹りてゐる人。

一、心臓病に罹れる人。
二、右の外種々の病に罹つてゐ
る人の滋養物として理想の良

一、發育不全の小兒
 一、陰萎、遺精などの生殖器官
 食料不足

▲賣捌 全國到處の藥舖洋酒食料品店化粧品店小間物店

ミツワ石鹼
 ミツワ家庭藥

東京市日本橋區橋町四丁目
 藥劑、滋養品、石鹼、化粧品、小間物問屋

本舖 規那鐵葡萄酒
肝油ドロップス
御園化粧品
發賣元
丸見屋商店
電話 略號〇ミヤ……振替口座東京七一〇番
營業部電話 特設股花三〇、四四八、四四九、四五〇番

[illegible]

立てたる意見である
 郵便貯金雑誌話(二)
 矢野通信課長談
 (4) 先づ第一に勤勉努力す
 るが肝要也

朝鮮京城明治町二丁目
朝鮮總代理店
瀧川銃砲自轉車店
電話三〇二番

法を根柢とするが故に無限限を覺悟する上於いても各目の心内に無限性を認知するのである。即ち無限性を覺悟するのである他力門に在りては吾人各目の有限微劣なる覺悟を根柢とするが故に無限限方は固より吾人已外に在りてと認悟するのである。是を無限無限を覺悟するといふべきである。而して自力門の信者は心内の無限性を認悟すれば其無限開發の疑なきに安心し他力門の信者は心外に無限限を認悟すれば其無限開發の疑なきに安心するである。故に二門の覺悟が心外に轉る處ありて是は共に

を認くること

支那貨に稍々不利なる様相も(を)公定し之が斷けを見る。曉に於ては支那貨は管理値以下に取扱入を以て自然支那貨は流出し流

入を防遏し得べし、相場を公定するに當り支那貨の價值を低くする程度は安東鐵皮及び本邦の交換年に對し爲替送金相場は支那貨現送爲を越わざるを度とす

四 支那貨交換基金一萬圓を平安北道管理の下に置き其一部は支那貨を以て正金銀行安東鐵皮支店當座に存入し地方金融組合の交換報告書に依りて支那貨を爲替の交換報告書に依

度を揮用せし或る年の如きは此制度
 に依て選舉権を得たるもの二千三百
 六人の多きに達せりと云ふ斯の如く
 各州にては郵便貯蓄の獎勵に關して
 々の努力をなしつつあるものとす

日 報 俳 壇

夏 雑 詠

交情徒事ならぬとて夏の月
夏木立放たれ牛の角を磨く
外人の持去る富や鎌田者し
履立たぬ帥僧に侍も結反成
水車や落にとす灯の所見又
雲へけ國の祭事や四他散る
水青魚換給と知られて退き
日晷や振合ふ土間の白

同 杏 村

夏 雜 詠

交情徒事ならぬとて夏の月
夏木立放たれ牛の角を磨く
外人の持去る富や鎌田者し
履立たぬ帥僧に侍も結反成
水車や落にとす灯の所見又
雲へけ國の祭事や四他散る
水青魚換給と知られて退き
日晷や振合ふ土間の白

同 杏 村

宗教の事となれば、世人は動もすれば宗教は大切であると思ひ口に雖も罷りながら、日常の業務に多忙であるとか、生活問題が大事であるとかいふ事に忙しく顧みず事なきは甚だ遺憾に思ふのである。それは尤も次第、一刻も油斷のなから活動の人生であるから致方ないであらう。然し乍ら、事物の外観のみに心を捕はれて居るといふ事は之亦甚だ心細い次第であるといはねばならぬ。靜に自己が眞の自己を藏視して貰はねばならぬのである。世間で落着かねばならぬとか、安心を得な

來す可き等々、若存若亡の心抱へ能は眞の安心でないといふのは此處で此無礙大力に一受したる位から於初めて大なる活動の生ずる所謂佛心凡心一體の點が正しく行くの味であつて如來の光明に變化した狀態といふのである。此狀態の著る處に無限力の働きが活動の本となつて行くので所謂動念交徹であるから。活動が落着きにもいふ如く圓融無碍の活動と現はれるのが行の妙用である。よきであらう、落着かぬ底力ある活動こそ現代の

無限を認信して一心の安泰を得るに於ては同一である。此無限の妙用に垂注したる處に人生活動の面目を新にし永遠に自己の生命を蘇しむる事を得るものと信ずるものである。

國境の經濟 (主)

六、江岸の支那貨

二、支那貨流通の地方の各地に金融組合に對し千兩乃至千圓の交換資金を貸付し無手續料を以て支那貨交換の場を廣くする。

(イ) 交換資金は一部は支那貨に交換して正金、支那貨店に預入し他の一部は新振州に於ける朝鮮銀行又は農土銀行の支店に預入し利権を以て萬一支那貨交換に於て損害を生じたる場合の償還に充つ。

(ロ) 地方金融組合して交換商を日報せしむるのみならず一日に一定額以上の交換をなしたるとき之を電報せしめ各組合は支那貨仕向の増減に應じ前記の支那貨店に高利

(5) 郵便貯金獎勵に關するもの
各縣の施設

郵便貯金制度の目的たるや主として國民をして勤儉ならしめ以て其貯蓄の心を鼓舞するにありされは各縣にて之れが獎勵に關じ各種の施設をなすべしといふありて或る國には種種の郵便貯金の貸與をなし貯蓄し得べきものにして亦大の努力を要するものに非ず此方法も亦意思の確固たる人にあらずれば行ひ難きものなり要するに多量のお金をなさんには勸勉又は努力を肝要とす

温泉の司や夏月夜流行唄
花見
甘酒の行燈たり志賀の松
雄子郎
夏の月果て海を見入る口
東林
夏の月に流れ早さや裏戸口
同
夏菊や土に押込み忘れ銀
同
濡む日に嬌語するを見
同
紫陽花に又の出水を見る兒
同
奥山に飼はれ鶴老ゆ寄草
同
蟹を出て何うぞ一彈きに免
同
夏菊や受けし顔の小百姓
同
芍薬に寺の泉を見かけり
同
姉妹に父の忌日や百合の花
同
夏菊や陽のあたる小戸
同
夏菊に眩覺せらるる身哉
同
汗に山雨しほ／＼流ぐかな
同
鯉鷁くや砂丘數ある廢れ邑
同

ければならぬとか各方面に於て論ぜられて居るが、其反面は人の心は弱いものであつて、緩むや不安に發れて居ることを表出するものである。自己が自己の眞の姿に目を醒して貰いたいのが、實に大切であつて、生きた宗教はここから生れて来るものである。或人が宗教の信仰に入るのは自己に對する態度であつて云ふたが此事である。大體人間は働き通しに働けるものではない。其働く一面には心を落着けるとか或は思ふを求めるとかして居る。現在に於て何人も

無佛居士足下、余は關らざりき。金剛山と金剛山通に就ての交關と其他の設備に關し長々と小を著くし、探勝上の便を圖り、接應せしめより多く金剛山の山水の香りの外、別に乾乾地あることしめ、俗愚陋陋なる樵民地的を一洗せんとする期せよとまなら思ふと遠心に外ならず、而も小

金剛山を觀て

釋 尼 旭

ても是山上の名山無しと言ふは誇張の嫌あるを免れざるも、支那稱鮮を通じての名山なることには恐らく何人も異言無き所なるべし、其故々は一萬二千嶺ありと言ふ、果して一萬二千嶺あるか否やを知らざるも、周圍三十餘里なる此大山の包容する大小高低無數の嶺を數へれば、或は一萬二千嶺を算するやも知れず、此無數の嶺の伴ひに無數の瀑布と溪谷あることも想像するに餘りあり、此嶺と無數の溪谷を彩るに譬々たる千古の老樹繁茂す、峯ある所必ず谷有する嶺と谷とが無數に集まりて一大金剛山を大成せるを以て其巨觀を張すべからず、寧ろ想像の外なり歟、して其雄なるものは外金剛の九龍潭と萬物相なり九龍潭と萬物相は蓋し金剛山を代表せるものと云ふべし、即ち嶺と谷の奇は九龍潭之を代表し、峯と水の奇は萬物相之を代表す、金剛山を觀望せる幾多の奇異あり、而も金剛山の眞面目たる大金剛に似し得たるもの一も無し、金剛山に關する記事必ずしも觀とせざ、而も金剛山の眞面目を書き現はしたるもの

かし能はざるべし、蓋し金剛山は筆
 墨の外に超然たる大自然なり
 金剛山の山水風景を一瞥一谷に分
 して觀べ、是以上之奇と美とを備ふ
 る山水日本に幾個もあり、石と水と
 樹木の配置妙を極めたる山水莫より
 優べたるは金剛山に違に耶、我
 々に及ばず、岩石の奇なることに於て
 小豆島、猿轡、瀧に及ばず、瀧に於て
 は那智山に及ばず、瀧に於ては華嚴
 の諸に及ばず、水の壯と靉々たるに於
 て日光に及ばず、溪谷のみに於て飛
 鶴に及ばず、山の奇と大に於て飛
 鶴の日本アルプス諸山に及ばず、壯
 きのにあらざるを知るべし
 而も數千の奇絶深溪を集めて一山
 し、其峰の多き、溪谷の多き、此
 石の大にして且つ奇なること、於
 金剛山に日本諸山の冠せり、今
 剛山は天下第一なり、要するに金
 剛山に於て天下第一なり、風景
 山は美と云ふよりは、奇なる風景
 美を稱すと云ふよりは、山容水態
 奇絶絶を稱すと云ふを常れり、
 奇絶絶を稱して、山水の壯絶と岩
 ん、一瞥を、屢懸て、山容水態
 に適せず、題懸て造化の奇巧に驚
 の奇絶を探りて、金剛山の探勝
 者の地なり、然して金剛山の探勝

何等かの事柄を手寄として心の落着
を得んとして居る様であるが、然し
此世間の事柄の上に於て心の落着
あるは手寄り所であるのは結構であ
るけれども此等には行儀がある様に
思はれて所謂心の動搖不安の有様
が早晩心の一面を襲ふ事を免れな
くまねことなり、一貧金剛山其の神に對して
りては金剛山の美の神に對して
山水風景論に及ばん
無佛土足下、金剛山は臨に名
り、少くとも北支那より朝鮮半
島に於ての唯一の名山なり、山岳
と、山水の美を以て名を著し日本

あり、梓ある所飛泉あり、飛泉ある所
流水溪谷に奔流す。峰は如く雲を破
り、石は開て屏風の如く雪まつて
飛はたてり。飛瀑此間に懸を吐き
老樹此間に棲を參差たり。萬樹の溪
流千仞の底に奔濤となり。雷の如く谷
より谷に響き流る。瘴の如き大觀を
來たりたる文句では到底其真面目を具

の。一も無し、文章を以て耶馬溪をし
て天下に名を成さしめしと云ふ山陽
を地下より想し來るも金剛山の威に
しては筆を投じて唯大自然の威に打
たれて呆然たるのみ。金剛山は支那
の山岳記、日本の山水記より採りし

絶なることに於て淺間山にも駒ヶ嶽にも固より及ばず、其高きに於ては金剛山最高峯と稱せざるも、思ひ解すに僅に一千五百米差を出でず、夏に上れば峰にも谷にも雪の痕跡をも印せざるより窺ふるも、金剛山に決して高きと深きと大を以て誇る得べき程切れたる懸念あり、此に據る

朝鮮總代理店 瀧川銃砲自轉車店
電話三〇二番

高貴の御買上を蒙りたる
光榮ある最高級車
御大典記念特製品(名古屋)
エシバヤ號自轉車

品質優良ニ大製
純英國製雪道タイヤ
日本製力クタイヤー

総發元
鈴鹿市自轉車部
京都本店

今十二日より實行

空袋引換改正致しました

今日から左の通り改正致しましたから紛々御持参を願ひます

◆はつひ 空袋二十枚に付 實物壹包 差上ります

◆萬福 空袋二十枚に付 實物壹包 差上ります

朝鮮煙草株式會社
代理店 板倉商店

品質を吟味せられよ

是からの暑氣に

健康を欲せらるゝ家庭は
蒸溜水を以て製造したる

清涼爽快にして

最高の信用ある

リボン印シトロンを名づけ

國シトロンは近時類似品頗る多し當社の製品はリボン印の商標貼附ありあるものに限り候間御用命の際特に御注意を乞ふ

製造元 大日本麥酒株式會社

資本金
壹千萬元圓

